

SIT-6 会 第 1 7 回

川俣溪谷(清里) 散策記録 (抜粋)

【日 時】2014年10月31日(火) 7:00 ~ 19:00

【場 所】川俣溪谷(清里) (集合:大和駅 7:00)

【参加者】池田直人、石原一孝、加藤卓、藤森健次、松本洋一 (五十音順)

内 容

夜中にふと目覚めると窓の外の雨音が聞こえる。まだ半分寝ぼけた頭で考える、今日の散策は中止かな、いや、雨でも見て回れる所はあるだろうから決行だと。 そのうち又まどろみのふちに沈み込む。目覚まし時計で目覚めると幸にも雨は降っていない、安心して軽めの朝食を済ませ家を出る。

集合場所の大和駅に着くと藤森氏が愛車と共に待っていた、まだ他のメンバーは来ていないとのこと。藤森氏が電話をかけて分かった事だが、彼らは駅の違う出口で少し前から待っていたとのこと。結果的には全員集合出来た。 集合場所の指定は明確にすると共に各自も思いこみを捨てて良く確認することが必要と感じた次第である。

さて、全員集合したので藤森氏の愛車で一路八ヶ岳の清里を目指して出発する(7:10)。海老名 IC から東名高速に入り、途中から圏央道に入り(8:15)、清里には 9:40 頃 到着した。 早速川俣川の「吐竜の滝」を訪れる。 車から降りて遊歩道を歩き出すと黄色く色づいた木々が我々を迎えてくれた。 川俣川脇の遊歩道を少し遡上するとその滝は有った。

川に面する崖から水が流れ落ちている、色づいた木々と緑の苔を背景にして。 この紅葉は少し遅かったようである。もう少し早ければもっと鮮やかな赤や黄色の錦が見られただろう、少し残念だ。



(1) 吐竜の滝



(2) 吐竜の滝にて



(3) 吐竜の滝にて

(4) 八ヶ岳自然ふれあいセンターにて情報収集

さてしばし吐竜の滝を満喫した後道に戻って「八ヶ岳自然ふれあいセンターに顔を出し(10:40)周辺の情報を収集する。藤森氏は用意周到な人物で、昨日もここへ電話して道の状況等を聞いている。

当初予定していた道は一部通行止めがあり計画を変更し、遊歩道を辿って天狗岩を経て乙女の滝まで行き、折り返して戻り車で東沢大橋に行くことにした。

センターを出て(10:55)、清泉寮近くの小径を辿って再び川俣川に向かう。途中木の梯子や大きな岩の間を通過して天狗岩を過ぎて乙女の滝の方に向かっていたが、時間の制約もあり少し行った所から引き返すことにした(11:40)。清泉寮に戻り(12:10)、各自好みのメニューを頼み昼食を摂る。ここではまだ暖かいパンにオリーブオイルを付けて食し、サラダ・スープは各自自由に取分けし、更にメインが終わってからコーヒーが付くシステムになっている。食事をしながら次回(11/7)のテニスの練習の打合せを行う。食事・打合せを終えて(13:15)、これから東沢大橋(通称赤い橋)へ行って橋をスケッチする為に一同腰を上げる。橋へは車で移動し10分程で着く。



(5)

(6)

(7)

スケッチには小一時間かけて臨み、各自腕をふるった、つもりであるができればは、まあまあであるとしておこう。帰りの時間もあるのでスケッチが概略描けた段階で切り上げ(14:30)、次の予定に移る。

途中 JR 線で最高の標高地点を眼と足で確かめた(14:45)後、次は昔 TV で放送されたドラマ「高原へいらっしやい」*1)で使われたロケ地である八ヶ岳高原ヒュッテ*2)を訪れた(15:20)。

私はあまり記憶にないが同行の友人達は懐かしがっており、この建物を背景に記念撮影に及んだ。

- *1): (1976年に放送。田宮二郎主演、山田太一のオリジナル書き下ろしドラマ。2003年に佐藤浩市主演でリメイク)
- *2): 元侯爵徳川義親氏（尾張徳川家 19 代当主）の邸宅。1968 年(昭和 43 年)に現在の地へ移築され翌年ホテルとして営業を開始



青春の一コマを皆思い出しながら一時を過ごした後(16:00)帰路についた。 帰路は往路とほぼ同じ経路をたどり大和に着いて解散となり(19:00)、私が帰宅したのは 20:10 であった。 今日日は日帰りで八ヶ岳山麓まで往復してきた訳だが交通の便が昔と比べ格段に良くなってきたものである。この調子なら行動範囲がかなり広がってきたということだ。時間的に余裕があり身体が自由に動かせる今色々な所へ出かけよう。



(9) 八ヶ岳高原ヒュッテにて